

9年間に渡る施設骨折の検討

Examination of fractures in facilities for 9 years.

○伊藤 博之¹、藤原 靖士¹、佐伯 修二¹、中川 誠二¹、吉田 千佳¹、足立 大樹¹
¹ホームケアクリニック横浜港南

当院が訪問診察している特別養護老人ホーム3施設、グループホーム8施設、有料老人ホーム1施設に対して、平成23年4月1日から令和2年3月31日までの9年間に渡る施設骨折人数は288人で4事例は多重骨折しており全骨折数292例であった。受傷時間は午前7時～8時が22例で最多であり、午前8時～9時、午前9時～10時が18例で2番目に多かった。骨折部位は、大腿骨152例で過半数を占め、脊椎骨38例、上肢骨31例、肋骨16例、手指骨11例と続いた。全骨折者288人のうち131人に手術が施行され、151人は保存的治療になった(不明6人除く)。大腿骨骨折症例は152人で123人に手術が施行され、27人が保存的治療であった(不明2人除く)。骨折の原因として最多のものは転倒であり78.6%を占めた(不明59人除く)。転倒を防ぐことが施設骨折を減らすと考え、比較的簡便に転倒リスクが高い入居者をスクリーニングするためFall Risk Index簡易版調査を施行した。286人に回答があり110人で6点以上を示した(6点以上で優位に転倒リスクが高い)。今後どのように、転倒リスクが高い入居者に介入していくのか検討報告する。